

平成 28 年度 仙台こども専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 岸本 拓也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 平山 乾悦

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、年 3 回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている

2. 28 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育理念「技能と心の調和」の質の向上 ～人間性を高める教育の実践～

「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成することを全国こども校で掲げ、単に知識や技術を教育するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、更に社会で役立つ人材を輩出することに取り組んでいる

また、教務においては以下の内容の目標・計画を掲げて取り組んだ

▲教務力の向上

・退学者の軽減等の数値目標の設定

→退学率 5.3%以下

・精皆勤率の向上の数値目標の設定

→累計 40%以上 (240 名/600 名中)

・基本の徹底 (挨拶・礼儀マナー・清掃)

・産学連携・ボランティア活動への参加を強化

→楽天球団・青葉まつり・商業施設とのコラボレーション・近隣児童館ボランティア

重点施策振り返り

・平成 27 年度の退学者は、目標喪失・進路変更等で 6.5%であった。精皆勤率に関しても、学校全体では 37.9%であった。その為、H28 年度は、退学率軽減の為、入学後のギャップをなくすために保護者会入学前オリエンテーションなどを開催し、カリキュラム・学校生活などを伝え、個人面談の回数を増やしたことによって退学率が 5.4% (1.1 減)、精皆勤率 39.4% (1.5%減) と一定の結果を得ることが出来た

・学校授業でインプットしたことをアウトプットする場の提供を生徒へメリットも含め積極的に HR 等を通じて担任が案内を行った

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

▲保護者会・入学前オリエンテーション・新入生・在校生オリエンテーションなどで、教育理念・ミッション・ビジョン・人材育成像の浸透は、しているが、実際にそれを意識し理解し行動しているかは不明である。今後の課題として、意識し理解し主体的に行動できる人材育成を目指して行きたい

② 今後の改善方策

- ▲全体会議・学年学科会議等を通し教員への教育理念・ミッション・ビジョン・人材育成像の浸透を図る
- ▲生徒へはミッション・ビジョンポスターをクラス掲示し、ホームルーム等で生徒への浸透を図る
- ▲入学前オリエンテーション・保護者会などでの説明強化

③ 特記事項

▲年度初めに、担任から自クラス生徒の保護者へ学校の教育方針・人材育成などを郵送で送っている

④ 学校関係者委員コメント

- ▲実践的なことや技術の部分（嘔吐処理・おむつ交換等）経験ができないまま現場に出ているので、現場で学びながら勤務している。是非、学校の授業でも基本的な実践教育をして欲しい
- ▲最近の若い人の傾向として、明るくて爽やかで良い面もあるが、上司から注意・叱責受けたとき表情に出る傾向がある
- ▲失敗体験が少ない状況で、社会に出ることによって、失敗により周囲の信頼を失ってしまうことを恐れて、次の行動に二の足を踏んだりという若い職員が多い。学生のうちに失敗経験を積むことが必要
- ▲先輩・上司から指示されたことは、しっかりやるが、その作業が何に繋がっていくとかを考えず、ただ指示されたことのみしかやらず、それ以外は自分で考えて行動はしない
- ▲今後、貴校が宮城県児童館協会と連携し、課外活動を実施（夏休みプール監視等）のアルバイトを斡旋すると社会に出たときにとても、良い経験になるのではないかと

(2) 学校運営

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 課題

▲社会人教育の一環として、生徒に対して授業などで業界に対するコンプライアンス指導が出来ていない

② 今後の改善方策

▲まずは各種のコンプライアンス関連文書を作成し、教職員に配布し、日常的に授業でも活用できる仕組みをつくる

③ 特記事項

▲年3回定期的に全教職員に向けての会議を実施し、学園・学校の教育方針の浸透と共に、情報共有を行なっている

④ 学校関係者委員コメント

▲実習やボランティアに関わった子どものことを学生が飲食店等で実習先のことを話してトラブルになるケースがある。学校においても個人情報の漏洩に関して、再度指導の徹底を図って欲しい

(3) 教育活動

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

▲保育業界との関係性の構築し、業界の現状を踏まえた授業の改善

▲教員研修を通しての指導力向上し、実践的な知識・技術を取り入れた授業の改善

② 今後の改善方策

▲より保育業界の理解や現状を把握する為に、業界の方を招いて教員研修・実習報告会の実施をする

③ 特記事項

▲全教員に対して昨年8月に外部講師を招いて「保育環境の変化」「保育を学ぶ学生の特徴」「これからの保育者に必要なこと」・4月上旬にLGBT研修を行い教員の指導力育成など資質向上のための研修を行った

④ 学校関係者委員コメント

▲保育士 3 年目までの仙台市主催の研修や各保育園での研修があり、保育士としての資質の向上に努めている

▲当社でも保育関係の研修を主催しているが、幼稚園教諭よりも保育士の参加者が多い。要請があれば、こども校で先生向けの研修も可能である

(4) 学修成果

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

▲年々退学率の減少・精皆勤率向上しているが、平成 28 年度は学年で見ると 1 年生の退学者が多く、3 学年の精皆勤率が低かった

▲開校 5 年を迎え、約 700 名近い卒業生を送り出してきたが、保育業界での卒業生の状況把握が出来ていないのが現状である

② 今後の改善方策

▲年 3 回のクラス・学科会の実施や保護者との連携を図り、退学率低減と精皆勤率の向上に努める

▲卒業生同窓会ホームページを活用し、卒業生の動向を把握し繋がる場として活用していく

③ 特記事項

▲平成 28 年度就職決定率 97.6%

▲平成 28 年度皆精勤率 39.4%

▲平成 28 年度退学者 5.3%

④ 学校関係者委員コメント

▲卒業生として同期全員は把握できていないが、退職した友達は、一般職へ再就職している同期もいる

▲3 年・5 年区切りや契約満了にて転職する方もいる。また、幼稚園・保育園・幼児関連に勤めているの転職で当社へ入社して来られる方もおり、今のところ辞める職員はいない

▲卒業生も含め長く勤務する方が多い。退職に関しては、本人の問題だけでなく、職場の責任もあるのではないかと

(5) 学生支援

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
中途退学者への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ▲課外活動（ボランティア活動）に対する積極的な案内や支援体制を強化して学生の学びの場として活動場所を確保すること
- ▲卒業生同窓会サイトや学校HPを活用し、卒業生の転職・再就職支援に対する支援の体制を整える必要がある
- ▲カウンセラーを1名（現在2名）採用予定

② 今後の改善方策

- ▲課外活動（ボランティア活動）に対しての選定や目的の再設定、及び計画の立案
- ▲今後、卒業生同窓会サイトの認知度を高めることや積極的に登録を案内し、転職・再就職支援に対する支援の体制を整える
- ▲精神的相談が増えていることもあり、外部よりカウンセラーを1名10月頃に採用予定

③ 特記事項

▲特になし

④ 学校関係者委員コメント

- ▲たばこの匂いがした等で残念ながら過去に正職員へは慣れなかった男性保育士がいるので、学生にもタバコの匂いがついた状態で子供たちに接する事や就職活動は出来れば止めて欲しい
- ▲就職受け入れに関して、児童館は年齢にこだわらないが、処遇として館長（40代）でも35万円程度しか払えないので、家庭を支える一家の大黒柱でだと難しい選択をする場合がある

(6) 教育環境

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ▲生徒数の増加による実習先の確保が課題
- ▲教職員の救急救助法の訓練・防災訓練・防災に対する組織作り

② 今後の改善方策

- ▲さらなる実習先の確保・実習時期を拡大（1ヵ月～3ヵ月間）させ実習を行いやすくする
- ▲教職員及び生徒への年2回の避難訓練・防災訓練の実施・防災に対する研修会実施

③ 特記事項

▲「大地震対応マニュアル」を作成し、全生徒・全教職員に配布

④ 学校関係者委員コメント

▲特にコメントなし

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
入学選考は、適正に行われているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ▲本校の教育方針・具体的な学習内容の浸透を図る
- ▲職業実践専門課程の認定申請

② 今後の改善方策

▲保護者へのオープンキャンパスへの案内を強化して参加を図る

▲教育の成果を高め、「保護者・高校から選ばれる学校」へ向けて教育の改善を行う

③ 特記事項

▲特になし

④ 学校関係者委員コメント

▲開校 5 年間で 600 名を超える生徒数に驚いている。学校環境・教務指導・学校の雰囲気などが良くなってきているのではないかと

(8) 財務

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

【中長期計画】

▲中長期事業計画は 2012 年に策定したが、当該計画は前倒して終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要がある

【予算・収支計画】

▲なし

【会計監査】

▲なし

【財務情報の公開】

▲ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要

② 今後の改善方法

【中期計画】

▲今年度に新中期計画を策定する予定である

【財務情報の公開】

▲今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

▲特になし

④ 学校関係者委員コメント

▲特にコメントなし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ▲自己点検／評価は学校関係者評価委員を通じて問題点・課題の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する
- ▲法令等の遵守（コンプライアンス）の職員への徹底

② 今後の改善方策

- ▲問題点・課題に対しての改善策を具体化し、計画的に実施する
- ▲職員の不祥事を未然に防げるよう、「コンプライアンス」についてどのように取り組むか、仕組みの整備を行う

③ 特記事項

- ▲特になし

④ 学校関係者委員コメント

- ▲特にコメントなし

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- ▲地域貢献をしながら産学連携の活動を推進する

② 今後の改善方策

- ▲地域の方が利用できるような講座・イベントの立案、実施
- ▲産学連携の活動の強化
- ▲子育て支援、ボランティア活動、公共職業訓練における委託訓練等の実施を継続して行なっていく

③ 特記事項

- ▲学校近隣の地域の子ども・保護者に対して学校を無料開放し、8階スタジオ隣保育室で遊び場を提供
- ▲地域イベントへの参加 ①青葉祭りボランティア(5月) ②BiVi（仙台駅東口商業施設）での七夕イベント(7月) ハロウィンイベント(10月)・児童館へのボランティア活動

④ 学校関係者委員コメント

- ▲本校生徒で、児童文化フェスティバルのボランティアに参加して頂き、大変感謝している。今年度も利府町こどもの町ワークショップを開催予定なので積極的に参加して欲しい